別紙

# 土地改良事業等請負工事積算基準及び 標準歩掛の参考資料(施設機械)

改正後

# 第1章 鋼橋製作架設工事(参考資料)

第1 [略]

## 第2 工場製作原価

1 直接製作費

1-1 [略]

#### 1-2 労務費

[略]

1) 製作工数

橋梁の製作工数は次式により算出することを原則とする。

(1)~(7) [略]

(8) 橋梁形式による標準工数

#### 表-2・4 橋梁形式別標準工数

要素形式	a <sub>1</sub> (人/個)	a <sub>2</sub> (人/個)	b <sub>1</sub> (人/10m)	b <sub>2</sub> (人/10m)	c (人/個)
単純鈑桁	1.48	0.32	0.94	0.39	0.43
連続鈑桁	<u>1. 47</u>	<u>0. 23</u>	0.78	0.37	0. 38
箱 桁	2. 25	0.31	0.87	0.37	3. 09
鋼床版鈑桁	<u>1. 24</u>	<u>0. 25</u>	0. 92	0.62	3. 61
鋼床版箱桁	3. 78	0.33	1.03	0.53	6. 24
トラス	0. 56	0. 33	0.75	0. 32	0. 79
アーチ	1. 59	0.41	0. 93	0. 55	2. 55
ラーメン	1. 98	0.40	0.80	0. 57	3. 26

#### 表-2・5 [略]

(9) • (10) [略]

2)・3) [略]

1-3 [略]

## 別紙

# 土地改良事業等請負工事積算基準及び 標準歩掛の参考資料(施設機械)

改正前

# 第1章 鋼橋製作架設工事(参考資料)

第1 [略]

## 第2 工場製作原価

1 直接製作費

1-1 [略]

#### 1-2 労務費

[略]

1) 製作工数

橋梁の製作工数は次式により算出することを原則とする。

 $(1)\sim(7)$  [略]

(8) 橋梁形式による標準工数

#### 表-2・4 橋梁形式別標準工数

X INVANCED IN 1 - 20						
	a <sub>1</sub>	a 2	b 1	b 2	С	
要素	(人/個)	(人/個)	(人/10m)	(人/10m)	(人/個)	
形式						
単純鈑桁	1.48	0.32	0.94	0.39	0. 43	
連続鈑桁	<u>1. 22</u>	<u>0. 19</u>	0.78	0.37	0.38	
箱 桁	2. 25	0.31	0.87	0.37	3. 09	
鋼床版鈑桁	<u>0. 99</u>	<u>0. 20</u>	0. 92	0.62	3. 61	
鋼床版箱桁	3. 78	0.33	1.03	0. 53	6. 24	
トラス	0.56	0.33	0.75	0.32	0.79	
アーチ	1. 59	0. 41	0. 93	0. 55	2. 55	
ラーメン	1. 98	0.40	0.80	0. 57	3. 26	

#### 表-2・5 [略]

(9) • (10) [略]

2)・3) [略]

1-3 [略]

ア. 無線局申請書の作成費用

改正後

<u>地方総合通信局へ提出する無線局申請書の作成に係る費用を計上する場合は、技術管理費に計上す</u>るものとする。

#### 3-3 技術者間接費

1)~3) [略]

#### 3-4 その他

1) 月標準作業日数

屋内設備(電気通信設備)の場合、据付工における1ヶ月の作業日数は、休日等を考慮して19日を月標準作業日数とする。

なお、地中及び屋外の配管配線工等の屋外工事が主たる場合は、各地区の月標準作業日数とする。

月標準稼働日数=月平均日数-{休日数+作業待ち等日数}

 $=30.4 \Box - \{10.4 \Box + 1.0 \Box\} = 19.0 \Box = 19 \Box$ 

月平均日数

月平均日数=365日/12ヶ月=30.4日

休日数

年間日曜日数=365日/7日=52.1日

年間祝祭日数=16日(土曜日と重複しない4日を含む)

慣習休日数=8日 (1/2、1/3、8/14、8/15、8/16、12/29、12/30、12/31)

慣習休日のうち日曜日と重複する日数=8日/7日=1.1日(振替休日とならない日数)

土曜閉庁による休日数=365日/7日=52.1日

土曜閉庁による休日数のうち祝祭日・慣習休日と重複する日数

=52.1日×{(16.0日-4.0日) +8.0日}/365日=2.9日(振替休日とならない日数)

年間休日数=52.1日+16.0日+8.0日-1.1日+52.1日-2.9日=124.2日

月平均休日数=124.2日/12ヶ月=10.4日

作業待ち等日数

機械の月標準作業待ち等の日数で、1.0日/月を標準に施工実態等により決定する。

2)~3) [略]

# 第2 電気通信設備工事標準歩掛

1~5 [略]

### 6 無線局申請書作成歩掛

### 6-1 各申請書の作成歩掛

	申請書作成	<u>局種</u>	<u>単位</u>	数量	技術員(人)
<u>1</u>	免許申請	固定局	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>1. 0</u>
<u>2</u>	同上	基地局、陸上移動中継局、	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0. 7</u>
		携帯基地局、特別業務の局			
<u>3</u>	同上	陸上移動局、携帯局	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0.3</u>
4	同上	無線標定陸上局	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0.7</u>
<u>5</u>	許可申請	高周波利用設備	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0. 7</u>

# 3-2 技術者間接費

1)~3) [略]

#### 3-3 その他

1) 月標準作業日数

屋内設備(電気通信設備)の場合、据付工における1ヶ月の作業日数は、休日等を考慮して19日を月標準作業日数とする。

なお、地中及び屋外の配管配線工等の屋外工事が主たる場合は、各地区の月標準作業日数とする。

改正前

月標準稼働日数=月平均日数-{休日数+作業待ち等日数}

 $=30.4 \Box - \{10.3 \Box + 1.0 \Box \} = 19.1 \Box = 19 \Box$ 

月平均日数

月平均日数=365日/12ヶ月=30.4日

休日数

年間日曜日数=365日/7日=52.1日

年間祝祭日数=15日(土曜日と重複しない4日を含む)

慣習休日数=8日 (1/2、1/3、8/14、8/15、8/16、12/29、12/30、12/31)

慣習休日のうち日曜日と重複する日数=8日/7日=1.1日 (振替休日とならない日数)

年間土曜日数=365日/7日=52.1日

土曜閉庁による休日のうち祝祭日・慣習休日と重複する日数

=52.1日×{(15.0日-4.0日) +8.0日}/365日=2.7日(振替休日とならない日数)

年間休日数=52.1日+15.0日+8.0日-1.1日+52.1日-2.7日=123.4日

月休日数=123.4日/12ヶ月=10.3日

作業待ち等日数

機械の月標準作業待ち等の日数で、1.0日/月を標準に施工実態等により決定する。

2)~3) [略]

#### 第2 電気通信設備工事標準歩掛

1~5 [略]

〔新設〕

		改正後			
<u>6</u>	変更申請	固定局	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0. 7</u>
<u>7</u>	同上	基地局、陸上移動中継局、	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0. 5</u>
		携帯基地局、特別業務の局			
<u>8</u>	同上	陸上移動局、携帯局	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0. 2</u>
9	同上	無線標定陸上局	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0. 5</u>
<u>10</u>	変更許可申請	高周波利用設備	<u>局</u>	<u>1</u>	<u>0.5</u>

- (注) 1. 再免許申請には適用しない。
  - 2. 購入・役務契約には適用しない。
  - 3. 無線設備は現用(1台)構成の場合の歩掛。
  - 4. 同一局において無線設備が異なる2方路目以降の申請は0.7倍とし、同一設備で現用予備構成(2台)の場合は1.4倍とする。

(例) 2方路の場合は1.7倍(1+0.7)。

現用予備(1号・2号機)構成の場合は1.4倍。

現用予備と現用のみの2方路の場合は、1.4+ (1×0.7) =2.1倍。

- 5. 複数局をまとめて1つで申請する場合は、1局分の歩掛とする。
- (例) 陸上移動局3台を1申請で行う場合は1局。
- 6. 同一装置において、無線局種別が異なることから複数申請となる場合は各々1局とする。

(例) 陸上移動局兼携帯局の場合は2局。

## 7 既設機器と新設機器を並行運用する際の仮移設歩掛等の取扱い

既設機器(撤去対象)を仮移設(近距離に移設する場合)し、新設機器の設置及び調整を完了するまでの間、一時的に並行運用する場合の積算については以下のとおりとする。

#### 7-1 歩掛、機器管理費

[略]

#### 7-2 留意事項

[略]

# 第3章 質疑応答

# 第1 共 通

 $1-1\sim 1-16$  「略]

#### 1-17 (月標準作業日数)

施設機械工事における月標準作業日数について示されたい。

屋内設備(ポンプ設備)の場合、据付工における1ケ月の作業日数は、休日等を考慮して19日を月標準作業日数とする

また、屋外設備(水門設備等)の場合、据付工における1ケ月の作業日数は、各地区の月標準作業日数とする。なお、 屋内設備と屋外設備が錯綜する工事については、主たる設備の月標準作業日数を適用する。

月標準稼働日数=月平均日数-{休日数+作業待ち等日数}

 $=30.4 \, \exists \qquad -\{\underline{10.4} \, \exists + 1.0 \, \exists \}$ 

=  $\underline{19.0}$   $\exists$   $\exists$   $\exists$   $\exists$   $\exists$ 

月平均日数

月平均日数=365日/12ヶ月=30.4日

# **6** 既設機器と新設機器を並行運用する際の仮移設歩掛等の取扱い

既設機器(撤去対象)を仮移設(近距離に移設する場合)し、新設機器の設置及び調整を完了するまでの間、一時的に並行運用する場合の積算については以下のとおりとする。

改正前

# 6-1 歩掛、機器管理費

「略〕

#### 6-2 留意事項

[略]

# 第3章 質疑応答

# 第1 共 通

 $1-1\sim 1-16$  「略]

#### 1-17 (月標準作業日数)

施設機械工事における月標準作業日数について示されたい。

屋内設備(ポンプ設備)の場合、据付工における1ケ月の作業日数は、休日等を考慮して19日を月標準作業日数とする。

また、屋外設備(水門設備等)の場合、据付工における1ケ月の作業日数は、各地区の月標準作業日数とする。なお、 屋内設備と屋外設備が錯綜する工事については、主たる設備の月標準作業日数を適用する。

月標準稼働日数=月平均日数-{休日数+作業待ち等日数}

 $=30.4 \, \exists \qquad -\{10.3 \, \exists + 1.0 \, \exists \}$ 

=19.1 日 ≒19 日

月平均日数

月平均日数=365日/12ヶ月=30.4日

改正後

#### 休日数

年間日曜日数=365日/7日=52.1日

年間祝祭日数=16日(土曜日と重複しない4日を含む)

慣習休日数=8日 (1/2、1/3、8/14、8/15、8/16、12/29、12/30、12/31)

慣習休日のうち日曜日と重複する日数=8日/7日=1.1日 (振替休日とならない日数)

土曜閉庁による休日数=365日/7日=52.1日

土曜閉庁による休日数のうち祝祭日・慣習休日と重複する日数

=52.1日×{(16.0日-4.0日) +8.0日}/365日=2.9日(振替休日とならない日数)

年間休日数=52.1日+16.0日+8.0日-1.1日+52.1日-2.9日=124.2日

月平均休日数=124.2日/12ヶ月=10.4日

作業待ち等日数

機械の月標準作業待ち等の日数で、1.0日/月を標準に施工実態等により決定する。

#### 第2~第5 [略]

# 第6 塗装

#### 6-1 (施工面積)

標準歩掛 第7章塗装 表-7·2·5 工場塗装工標準歩掛及び表-7·3·2 現場塗装工標準歩掛において、鋼製付属設備の区分 C, D における単数当りの施工面積の算出方法を示されたい。

鋼製付属設備の区分 C,D における施工面積は、標準歩掛 第6章鋼製付属設備 表-6·1·1 区分及び内容の 摘要欄内の設備毎の合計面積とする。

#### 休日数

年間日曜日数=365日/7日=52.1日

年間祝祭日数=15日(土曜日と重複しない4日を含む)

慣習休日数=8日(1/2、1/3、8/14、8/15、8/16、12/29、12/30、12/31)

慣習休日のうち日曜日と重複する日数=8日/7日=1.1日(振替休日とならない日数)

年間土曜日数=365日/7日=52.1日

土曜閉庁による休日のうち祝祭日・慣習休日と重複する日数

=52.1日×{(15.0日-4.0日) +8.0日}/365日=2.7日(振替休日とならない日数)

年間休日数=52.1日+15.0日+8.0日-1.1日+52.1日-2.7日=123.4日

月休日数=123.4日/12ヶ月=10.3日

作業待ち等日数

機械の月標準作業待ち等の日数で、1.0日/月を標準に施工実態等により決定する。

# 第2~第5 [略]

#### [新設]